かいづか文化財だより

テンプス TEMPUS

2020年（令和２年）70号

国宝孝恩寺観音堂の修理

孝恩寺観音堂は、地元では釘無堂（くぎなしどう）と呼ばれて親しまれており、令和元年９月から大正５（1916）年以来約100年ぶりの修理が始まりました。

修理中の重要文化財願泉寺太鼓堂

願泉寺は、地元ではぼっかんさんと呼ばれて親しまれており、平成30年台風21号で受けた被害の修理工事を令和元年７月から９月と11月に行いました。

もくじ

地域の文化財を守り伝えよう
－釘無堂とぼっかんさんの修理から－
国宝孝恩寺観音堂の修理／重要文化財願泉寺の修理
地域で守り続けられる櫛の神さま 八品神社
現地見学会「水間街道を探訪しよう」
／ 古文書講座 －市内に残る身近な古文書－
地域史『貝塚市の70年』を読む会 秋の記念講演会
／ まちの駅 かいづか「貝塚の民話」絵本原画展
／ 講演会「貝塚市の発掘調査を振り返って」
文化財講座・セミナー

修理が終わった貝塚市指定文化財
願泉寺経蔵

地域の文化財を守り伝えよう－釘無堂とぼっかんさんの修理から－

文化財建造物は、永年の風雨などの経年劣化、火災や地震などの災害を乗り越えて、守り伝えられてきました。日本の文化財建造物は、西洋の石造やレンガ造の建物と異なり木造のものが多く、柱などの部材の腐朽（ふきゅう）や火災の被害の心配があり、早めの手当や定期的な修理が不可欠です。今年度は、市内の国宝と重要文化財の修理が行われており、それぞれの修理の状況を紹介します。

国宝孝恩寺観音堂の修理

木積（こつみ）の国宝孝恩寺観音堂は、鎌倉時代後期に建て直されたと伝えられ、所蔵する平安時代ごろの仏像とともに、戦国時代の戦火をのがれて守り伝えられてきました。

観音堂は、大正５（1916）年に解体修理が行われましたが、100年以上が経過して経年劣化や風雨による傷みが見られるようになってきました。そのため、令和元年９月から令和４年１月まで修理工事を行っていきます。

屋根は瓦の割れやずれのため、強い雨の時には雨漏りも発生しており、屋根の瓦を全部おろして、再利用できるものを選別し、瓦の葺き替えを行います。壁は、隙間ができてぐらついているため、下地から修理して漆喰（しっくい）の塗り直しを行います。堂の周囲には縁（えん）と呼ばれる廊下が巡りますが、軒下が狭く雨や日光にさらされて板が割れたり風化したりしていますので部材の取替えを行います。床板や建具などについても不具合を確認して補強や部材の取替えを行っていきます。

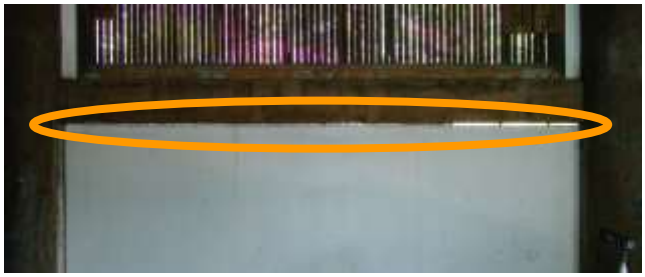
また、文化庁はこれまでの大地震の被害を受け、国宝・重要文化財建造物を守るため、耐震診断を実施し、耐震補強の工事を行うように文化財所有者に推奨しています。そのため、観音堂についても、修理工事を行うとともに、耐震診断を行っております。

令和元年12月から、観音堂の内部の仏像などや周囲の植木の移動を行い、周囲の足場を設置しており、今後は屋根から瓦を降ろす作業へと工事は進んで行きます。

瓦のずれ

瓦の欠損状況

瓦のずれ、落下



壁のすき間（建物内）

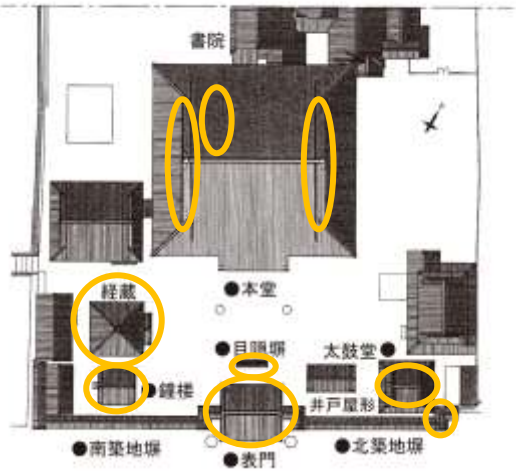
壁の漆喰のはがれ

重要文化財願泉寺の修理

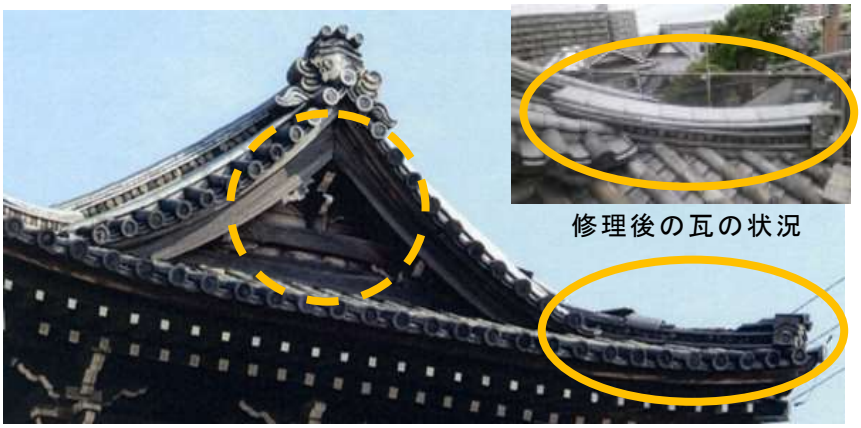
平成30年９月の台風21号により市内は大きな被害を受けました。中町の願泉寺においても、重要文化財の本堂、太鼓（たいこ）堂、表門、鐘楼（しょうろう）、北築地塀、目隠塀(めかくしべい)、市指定文化財の経蔵などの建造物に被害がありました。

特に太鼓堂の被害は大きく、漆喰（しっくい）の壁がはがれ落ちたり、屋根瓦が割れたり、ずれ落ちる被害とともに、屋根の飾り「懸魚（げぎょ）」が破損し落下しました。

◆願泉寺境内の建造物



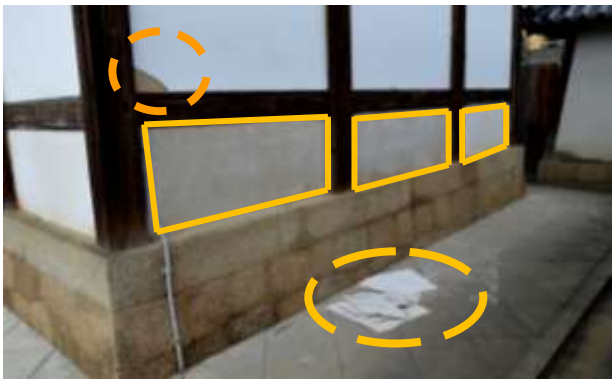
台風被害の場所



修理後の瓦の状況

懸魚が落下して失われた状況　　瓦の被害状況

取り付けられた懸魚



壁の漆喰がはがれた状況

塗り直された壁の漆喰

太鼓堂の屋根の修理は、屋根の上で作業を行うため足場を設置して、破損した瓦の取替えやずれた瓦の葺き直しが行われました。はがれた漆喰壁は、一面を掻き落として、漆喰が塗り直されました。懸魚は反対側のものを参考に復元したものが取り付けられました。

紹介した太鼓堂のほか、鐘楼、北築地塀の３棟の修理は、国庫補助事業として令和元年７月から行われ、９月末で終了しました。また、本堂、表門、目隠塀、経蔵の修理については、11 月１カ月の間で終えました。

今回紹介した孝恩寺と願泉寺の修理は、市民共有の財産である文化財を後世につなぐための大切な工事です。特に、新たに始まった孝恩寺観音堂の約 100 年ぶりの修理は、800 年以上守り伝えられてきた建造物を天災などから守るため、伝統的な修理だけでなく最新の技術を加えて行われるものです。今後、修理の進捗状況や明らかになったことについて、テンプスでも紹介していく予定です。

地域で守り続けられる櫛の神さま 八品（やしな）神社

貝塚市は日本最古の櫛の生産地と伝えられ、「和泉櫛」（つげ櫛）は現在も貝塚市の伝統工芸の一つとして知られています。

今回のテンプスでは、３月７日（土）から開催する郷土資料展示室特別展「貝塚市の伝統工芸 和泉櫛ヒストリー」の開催にあわせて、和泉櫛発祥の地とされる貝塚市澤にある櫛の神さま「八品神社」について紹介します。

八品神社のはじまり～「八品神社由来記」から～

八品神社のはじまりは、現在の時代区分では古墳時代後期にあたる欽明（きんめい）天皇（539～571 年）の時代だと伝えられています。その伝説については諸説ありますが、江戸時代に書かれたと考えられる八品神社の縁起（えんぎ）「八品神社由来記」を要約すると、次のような内容になります。

現在の八品神社（貝塚市澤）

欽明天皇の時代、天皇がお住みになる御殿（ごてん）の柱に不思議な形をした虫喰いがあらわれました。そこで人を呼んで占わせたところ、その人は「この虫食いは櫛という物を作る道具の形をしています。紙に書き写して、その絵図面を御殿の破風（はふ：建物の屋根の一部分）に掛けておけば、３日の間に不思議なことが起こるでしょう。その絵図面の向かうところを櫛作りの場所、八品明神（みょうじん）としてお祭りしてください。」と申し上げました。天皇はその言葉に感心して、勅使（ちょくし）を呼んで絵図面を作らせ、破風にかけたところ、１羽の鳥が飛んできて絵図面をくわえて飛び去りました。そして、その鳥は和泉国澤村の西の海岸に絵図面を落としました。その場所からまばゆい光がさすので、人びとが集まって見てみると、絵図面と櫛作りについて詳しく書かれた書付がありました。それより澤村では櫛作りが始まり、次第に隣村にも広がっていきました。絵図面と書付は「八品明神」という神社に納められ、村中の人々が八品明神の氏子（うじこ）となりました。

この縁起の内容については、江戸時代に幕府が全国の視察のため派遣した巡見使（じゅんけんし）に提出された記録など、多くの記録に同様のものが記されていることから、八品神社の由来として、古くから伝えられてきたものと考えられています。

八品神社の現在

伝説の上では八品神社は創建されてから 1400 年以上の歴史を有していますが、その後どのような歴史をたどってきたかについては、記録が乏しく明らかではありません。

明治 42（1909）年には、１つの町村には神社を１つとする国の政策により、祭神である天櫛玉命（あめのくしたまのみこと）は当時澤地区が属していた南近義村（みなみこぎむら）大

字（おおあざ）王子の南近義神社に合祀（ごうし）されましたが、八品神社の建物や境内はそのまま残されました。

現在の八品神社には、本殿と拝殿が建ち、拝殿内には櫛形の絵馬や「世の中の 心のもつれとけよとて 御さばきたまえ 神のつげ櫛」という紀貫之（きのつらゆき）の和歌が彫られた扁額（へんがく）【右写真】、櫛職人が奉納した櫛見本などが懸けられ、澤町会が参詣者のために設けた櫛資料室があります。

紀貫之の和歌が彫られた扁額

櫛資料室には、櫛の材料となる原木や様々な種類の櫛とその製作に使う道具類、櫛の製作工程を紹介したパネルなどが展示されています。また、拝殿脇には使用済の櫛を供養した櫛塚があり、境内周辺や参道には鳥居や灯籠（とうろう）、狛犬（こまいぬ）など、江戸時代から近代にかけて全国の櫛職人らから寄付された多くの石造物が残されています。平成 25 年には、昭和８（1933）年から途絶えていた「櫛まつり」【右写真】が 80 年ぶりに復活し、それ以後、毎年の町会の恒例行事となっています。

櫛まつりの中で行われる櫛供養

八品神社は、貝塚市の伝統工芸品「和泉櫛」に代表される櫛の神さまです。現在まで澤町会によって町ぐるみで守り続けられてきましたが、今後も地域の貴重な歴史的財産として、次世代へ継承すべき遺産といえます。

※八品神社の櫛資料室は、毎月１日・15 日、２月３日、３月３日、５月５日の午前９時～12 時に無料で観覧できます。

「貝塚市の伝統工芸 和泉櫛ヒストリー～つげさんのルーツを訪ねて～」

特別展

貝塚市の伝統工芸「和泉櫛」の歴史と現在について関係資料を展示します。

会　期　令和2年3月7日（土）～4 月 19 日（日）

会　場　貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）

観　覧　無料

休室日　毎火曜日、3月 20 日（金・祝）、4月1日（水）

八品神社の櫛形絵馬　澤町会蔵

第121回かいづか歴史文化セミナー 見学会

澤町会館でのミニ講演会とともに、櫛の神さま「八品神社」などを見学します。

日　時　令和2年3月7日（土）午後1時 30 分～4時

集合・解散　南海本線　二色浜駅

定　員　50名　※参加費は無料です

申込は６ページの申込先まで

地域再発見！妙順寺から水間寺へ第1部／第120回かいづか歴史文化セミナー

現地見学会「水間街道を探訪しよう～行基と楠木正成のゆかりの寺院を訪ねて～」

お寺や南氏の歴史について
熱心に話す南前住職

令和元年12月22日（日）、83名の方にご参加いただき、すいてつ沿線魅力はっしん委員会と市教育委員会の共催で、現地見学会を開催しました。

最初に訪れた妙順寺は、住職南氏の先祖が楠木正成とともに湊川の戦いで討ち死にしたと伝えられる正成ゆかりの寺院です。妙順寺では、本堂内において、前住職の南宗久さんによる「南氏と楠木正成との関わり」と題した講演などを行いました。その後、行基ゆかりの水間寺まで約１キロの水間街道を歩き、イベントの第２部「地域ショウタイムinかんのんさん」にバトンタッチし、日本伝統芸能「猿まわし」などを楽しんでいただきました。

古文書講座 －市内に残る身近な古文書－

◆江戸時代の凶作と歎願（たんがん）

古文書解読に集中する受講者のみなさん

令和元年10月９日から11月13日にかけての水曜日、全５回にわたり「江戸時代の凶作と歎願」と題し古文書講座を開催しました。

江戸時代に凶作が発生した際、人々が領主に年貢を引き下げてもらおうと歎願した話を、要家文書〈畠中〉から読み解いていきました。

テキストには、日照り続きの凶作を百姓らが訴えた、文化８（1811）年頃の歎願書を取り上げました。当時の凶作はひどく、「絶株」（たえかぶ＝跡継ぎがおらず廃業した農家）や「潰人」（つぶれにん＝年貢未納や借金返済が滞り、破産してしまう者）が増えて、村で年貢未納者が数年出続けたため、藩主への歎願は切実なものでした。

古文書講座６１（通算 292 回～296 回）開催のお知らせ

テーマ　庄屋不帰依（ふきえ）－江戸時代の村内対立－
日　時　第１回　令和２年２月５日、第２回　２月19日、第３回　３月11日
　　第４回　３月18日、第５回　３月25日　いずれも水曜日午後１時15分～３時45分
会　場　貝塚市民図書館２階視聴覚室　　資料代　100円

申込先 住所、氏名、電話番号を、電話・ファックス・Ｅメールのいずれかで、
下記まで事前にお申込みください。
〒597-8585 貝塚市畠中１丁目 12-1（貝塚市民図書館２階）
社会教育課郷土資料室　ＴＥＬ　072（433）7205　／　ＦＡＸ 072（433）7053
Ｅメール　shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

地域史『貝塚市の70年』を読む会 秋の記念講演会

講演に耳を傾ける受講者のみなさん

令和元年10月20日（日）に貝塚市歴史展示館で開催した秋の記念講演会では、講師に貝塚市陸上競技協会会長の寺田伸司さんをお迎えし、**「貝塚市の陸上競技」**と題してお話しいただきました。

講演会では、陸上競技が戦前の青年団活動として始まり、戦争で中断したものの、戦後すぐに復活し、好成績を上げた貝塚市の陸上チームの活躍が紹介されました。彼らを支えた実業団との交流や、泉州国際マラソン（1994年～）のお話も伺いました。

受講者のみなさんからも、当時の活動を懐かしむ声や、56年前の東京オリンピック聖火リレーの話も出されるなど、盛況のうちに講演会を終了しました。

まちの駅 かいづか 「貝塚の民話」絵本原画展

令和元年10月11日（金）から11月21日（木）まで、まちの駅かいづか（貝塚市観光案内所・南海本線貝塚駅改札口前）において、「貝塚の民話」絵本原画展を開催しました。

展示した絵本原画作品は、大阪府立貝塚高等学校３年生の生徒が、「貝塚の民話」を題材に絵を描いてできた作品です。

展示では、週替わりで「津田川の大龍王」、「万病（まんびょう）地蔵」、「キツネが憑（つ）く」、「地蔵堂のタヌキとタニシ」、「黒岩の織り姫さま」、「一鍬半（ひとくわはん）池とにわとり」の６つの絵本原画作品を展示しました。展示作品のうち「地蔵堂のタヌキとタニシ」については、「貝塚学」の創造事業の一環として教材化し、市内小学校３・４年生に配付しました。

第119回かいづか歴史文化セミナー

講演会「貝塚市の発掘調査を振り返って」

担当者による展示解説

令和元年10月５日（土）に貝塚市郷土資料展示室企画展「貝塚市の遺跡を掘る－昭和・平成の調査を振り返って－」の開催にあわせ、貝塚市民図書館２階視聴覚室で、文化財担当職員による、講演会を開催しました。

講演会では、遺跡とはどのようなものか、発掘調査がなぜ必要なのかといったことから、昭和50年代から平成にかけての発掘調査でどのようなものが発見されて何が明らかになったかなどをテーマごとに説明しました。また、講演後には、郷土資料展示室に移動し、講演の中でとりあげた遺跡や遺物について展示解説を行いました。受講者の方からは、「講演を聞いて、貝塚市内にはたくさんの遺跡があって、昔から人々が暮らしていたことがわかりました。」などの声が寄せられました。

文化財講座・セミナー

郷土資料展示室

「貝塚市の指定文化財」展 第３期

２/16(日)

◆２月

郷土　５日（水）13:15～　古文書講座61①
「庄屋不帰依（ふきえ）－江戸時代の村内対立－」

歴史　16日（日）14:00～　地域史『貝塚市の70年』を読む会40
「ブナ林の保全と近木川の水環境再生事業」

郷土　19日（水）13:15～　古文書講座61②

22日（土）14:00～　**シンポジウム「天然記念物和泉葛城山ブナ林の過去現在未来を語る」（会場:貝塚市教育研究センター）**

◆３月

郷土　７日（土）13:30～　**第121回かいづか歴史文化セミナー 見学会**
「貝塚市の伝統工芸 和泉櫛ヒストリー ～つげさんのルーツを訪ねて～」

３/７（土）

特別展
「貝塚市の伝統工芸 和泉櫛ヒストリー ～つげさんのルーツを訪ねて～」

郷土　11日（水）13:15～　古文書講座61③

郷土　18日（水）13:15～　古文書講座61④

歴史　22日（日）14:00～　地域史『貝塚市の70年』を読む会最終回
「平成期の貝塚市政」

４/19(日)

※貝塚市の近現代史については、今後もかいづか歴史文化セミナーなどを通じて皆様に触れていただく機会をご用意する予定です。

５/16(土)

郷土　25日（水）13:15～　古文書講座61⑤

「貝塚市の指定文化財」展 第１期

◆４月

歴史　９日（木）～　**企画展「東京オリンピックと貝塚（仮称）」**

※ 郷土 ：郷土資料室　歴史 ：歴史展示館

貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）企画展 -開催中-

「近代産業の礎（いしずえ）－貝塚のレンガから探る－」

近代の泉州地域では、レンガの原料となる粘土が多く産出することから、貝塚でもレンガ工場が建設されて、つくられたレンガは、全国に供給されていました。今回の展示では、貝塚の工場で製造されたレンガのほか、粘土採掘に関わる近代資料から、貝塚のレンガ産業について探っていきます。

会　　期　令和２年３月30日（月）まで
開館時間　午前10時～午後４時（正午～午後１時は閉館）

〈会期中の休館日〉
- 毎火曜日
- ２月12日(水)
- ２月23日(日･祝)
- ２月24日(月･振替)
- ３月20日(金･祝)

かいづか文化財だよりテンプス70号

令和2年2月5日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585　貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126　Fax(072)433-7053
Email:shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行:各1,000部

貝塚市イメージキャラクター
つげさん
貝塚市特産品「つげ櫛」をモチーフとしたデザイン。